



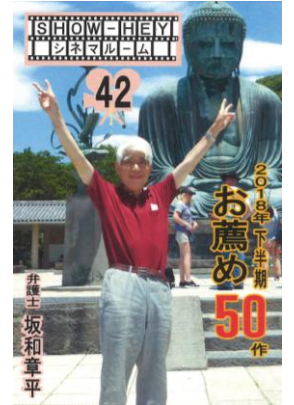
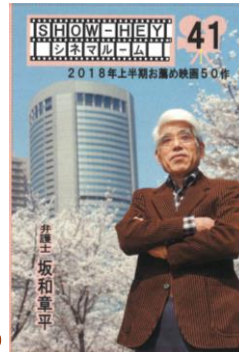
（平成30年11月8日撮影）

細谷優子 伏尾朋子 永田ひとみ
坂和章平弁護士 坂和展展弁護士



『シネマ41』
（2018年7月出版）
好評発売中！
（定価1,200円＋消費税）

2017年6月の出版以降、
好評発売中！
とりわけ、都市法の時代
区分に注目！
（定価2,500円＋消費税）



『シネマ42』（2018年12月出版）
（定価1,200円＋消費税）
是非ご購入を！

新年明けましておめでとうございます！

1) 18年11/2に公開された『華氏119』は、04年の『華氏911』に続くマイケル・ムーア監督の問題提起作。01年の9.11世界同時多発テロは全米に衝撃を与え、03年3月にはイラク戦争が始まったが、フセイン政権が大量破壊兵器を保有していると言うブッシュ大統領は嘘つき！それがカンヌでパルムドール賞を受賞し、『華氏9.11論争』を巻き起こした同作の主張だった。しかし、数字をひっくり返した『華氏119』とは一体ナニ？それは初の女性大統領の誕生確実と言われていた16年11/8の大統領選挙でヒラリー・クリントンを破ったドナルド・トランプが勝利宣言をした日だ。当時胃ガンの手術で入院し、連日TV報道を覗いていた私は、そこで大手マスコミのインテリゲンチヤを感じると共に、木村太郎氏等ごく一部のジャーナリストの見識に感服した。ブッシュのみならずトランプにも手厳しいM・ムーア監督の最新作はその2年後の“中間選挙”に照準を当てて公開されたが、その影響力は？

2) “米国第一主義”を掲げたトランプ大統領は、①TPP（環太平洋経済連携協定）の離脱、②大型減税の実施、③オバマケアの廃止、④移民抑制（メキシコの壁建設）、等の公約に次々と着手し、緊張をはらむ米中、米ロ首脳会談の他、何と史上初の米朝首脳会談までやってのけた。次々と話題提供を続けてきた。イスラエルの米大使館をテルアビブからエルサレムへ移したのも公約実行の一つだが、不公平な関税撤廃を理由とした“米中貿易戦争”の勃発は新たな“米中冷戦”の始まりかと心配されている。米国民はもちろん、中国・ロシアを含む全世界がそれらに振り回されながら、それぞれ賛否の決断を余儀なくされているうえ、反トランプの声は高まっているが、不思議なことに下がらないのがその支持率。常に40%を超えているからすごい。中間選挙の結果は、上院は共和党勝利、下院は民主党勝利と出た。“議会のねじれ”は政権の足かせになるはずだが、「とてつもない成功だ」とツイートしたのはなぜ？下院で大量に生まれた民主党の若手女性議員は本当に活躍できるのか？新たな党内対立の要因になるかも？2年後の大統領選挙の行方は？今後のトランプの政権運営と米国の動きを分析し、日米同盟のあり方をしっかり考えたい。

3) 10月には突然米ロの“中距離核戦力（INF）全廃条約”の破棄を表明したこと全世

界はビックリ！とりわけ、平和と核に敏感な日本の大手マスコミは、東西冷戦を終結に導いた核軍縮条約に背を向ける姿勢は言語道断！と反対した。しかし、地上発射式の中距離核ミサイルだけを制限し、しかも次々にそれを開発している中国を除外しているその条約が、現在どこまで有効有益かという論点をきちんと勉強すれば、彼の問題提起はあながち米国の身勝手ではなく、検討すべき点が多いことがわかる。今後の米ロ、米中首脳会談の重要なテーマになるはずだ。また、イランに対する原油の輸出禁止等を盛り込んだ最強の制裁再発動にもビックリ！中東問題は複雑で難解だが、サウジアラビアやイスラエルがこれを歓迎したのは当然。ガソリン代が高止まりしていた日本も要注意だが、日本はイラン産原油の限定的取引を認めてもらえたから一安心。他方、イランを支援するロシアと中国は苦い顔だ。さあ中東情勢の今後の展開は如何に？

4) トランプの登場と人気上昇に伴って、全世界で“自国第一主義”やポピュリズムが抬頭し、フィリピンのトランプ（＝ロドリゴ・ドゥテルテ）、ブラジルのトランプ（＝ジャイル・ボルソナロ）等も登場した。逆にドイツではG8を牽引してきた最古参のメルケルが落目となり、10月の州議会選挙では与党が敗北。彼女は首相の座には留まるものの、党首を辞任することに。その他、世界情勢の変化は急速で、中国ネタやロシアネタは書ききれないほど多い。

5) 日本では、16年7月の参院選で圧勝した安倍晋三自民党が、“もりかけ問題”を乗り越え、18年9月の総裁選挙でも石破茂に圧勝。第4次安倍改造内閣を発足させ、10/24からは国会が始まった。そこでは、入管法改正案等がテーマだが、小池百合子新党がポシュリ、一強多弱ぶりを一層強めている日本の政界はいかに粗末。出来の悪い大臣の資質不足を並べ立ててクビを取ることもうちはできるかもしれないが、野党再編、二大政党制、政権交代は夢のまた夢だ。憲法改正問題にどこまで踏み込めるかが最大の焦点だが、メルケル退陣後その存在感が増大している安倍総理には、外交での一層の頑張りが期待される。

6) プロ野球では広島カープと西武ライオンズが優勝し、日本Sでは下剋上でCS戦を勝ち上がった福岡ソフトバンクが4勝1敗1分で広島を制した。全試合をTV観戦した私は、かつて

広岡達朗監督から“坊や”と呼ばれていた工藤公康監督の第二先発構想や最終戦でのスクイズの戦法に感服。鉄砲肩（甲斐キャノン）で広島盗塁を100%阻止し、MVPに選出された甲斐拓也捕手に代表される選手育成システムにも感服した。阪神タイガースとは大違い。これでは何年経っても差は縮まらず、阪神の優勝も日本一もここ数年はムリ？

7) 将棋界では16歳の高校生棋士・藤井聡太7段の快進撃が続き（10/17現在の公式戦通算97勝17敗）、平成最後の新人王も獲得した。羽生善治竜王と広瀬章人8段が激突している竜王戦では、羽生が前人未踏の通算タイトル100期を達成するか、それともかつて保持していた7冠をすべて失い無冠になるかの岐路に立っている。他方、中村太地王座の初防衛を阻止した斎藤慎太郎7段が新王座に就いたため、8つのタイトルのうち4つを関西勢が占めたのは久しぶり。史上最年少の21歳で名人を獲得し“光速流”と呼ばれた関西出身の谷川浩司9段の通算1300勝達成とともに、関西勢の健闘に拍手を送りたい。

8) 囲碁界では、AIの強さと三々戦法に目を奪われがちだが、やはり人間同士の対決の方が面白い。井山裕太6冠に、復活なった張栩9段が挑戦した名人戦は、全7局ともすごい激戦の末に4勝3敗で張が勝利。新名人の自信復活と、5冠に後退し国際戦でも負けが込んでいる井山の復調を期待したい。

9) 30年間続いた平成に続く新しい元号の公表は改元1か月前の4/1だが、新年号は如何に？そして、2025年の大阪での二度目の万博開催はあるのか？その審判は11/23に決まる。70年万博で建てられた故岡本太郎作の“太陽の塔”は、内部公開やドキュメンタリー映画の上映もあって今なお人気が高い。酷暑暑い8月に開催される2020年の東京五輪はTV観戦で十分だが、大阪湾に造られた人工島・夢洲周辺のベイエリア開発を伴う55年ぶりの大阪万博に私の期待は最大。ロシアやアゼルバイジャンに負けるな！もう一度「世界の国からこんにちは」を聞こう！さあ、その夢の実現は？

2019（平成31）年元旦（2018年11月9日記）

坂和総合法律事務所

所長 弁護士 坂和 章平

1 弁護士45年を迎えて。弁護士坂和章平の雑感

1) 1949年1月生まれ、1974年4月大阪弁護士会登録の坂和章平は2019年3月末で弁護士45年！という長いようだが、実感はあっという間だ。最初の10年間は一般民・刑事事件はもとより、大阪国際空港公害訴訟、西淀川大気汚染訴訟に取り組み、日祝日も盆休みもGWもない毎年を繰り返した。そして、大阪駅前再開発問題と巡り合った、登録10年目の84年以降は都市問題に興味が移った。折りしも中曽根民活とアーバンルネッサンスの高まりの中で土地バブルが激化、“昭和の終わり＝平成の始まり”である1989年に日本は大転換期を迎えた。

2) “賃借派”ではなく“所有派”の私は、79年の独立時から大阪法曹ビル2階に約15坪の区分所有床を購入。その後も84年、85年に第5大阪弁護士ビルで約28坪の4F、5Fの区分所有床を購入。そして遂に01年には念願の土地付きの自社ビルを購入し、一部を自己使用、一部を賃貸することにした。その間、弁護士業務では一般事件の他、交通事故や不動産を巡る事件が急増した他、大型破産管財人事件も担当した。そのためイソ弁や司法書士の活用はもとより、私1人で10名近くの事務員を使うという超多忙な弁護士生活を送り、それが2010年4月に宏展弁護士が入所した後もずっと続いた。そして今、宏展は登録13年となり、章平は45年となった。

3) 13年6月、大海の中でヨットの高難事故に遭遇した幸坊治郎氏は、奇跡の生還を果たした後、“俺は自分の力で生きてきた”から“俺は多くの人たちによって生かされている”と“人生観”が転換したと語っていた。それと同じように、私も15年9月の大腸ガン、16年11月の胃ガンの手術で大きく人生観が転換。ハッキリ言って“仕事はどうでもいい”と思えるようになり、事務所だより31号にはそんな“雑感”を書いた。しかし、人間はやっぱり欲を持つ動物。私のような“俗物”はなかなか晩年の樹木希林さんのような“達観”はできないようで、弁護士業務でも法律書づくりでも映画評論でも、まだまだ欲がある。

4) その結果、後述のような出版活動が続いているが、そこで最大の問題はパソコン要員だ。平成が始まった40歳当時は優秀なスタッフがいくらでもおり、場面によっては弁護士以上の能力を発揮していたが、平成が30年間で終わる今、それは望むべくもない。このままでは日本は？いやいや、そんなことを考えるのは今の俺の仕事ではない。俺はひっそり一人で映画評論を書き、中国語の勉強をしていればいい。そう自分に言い聞かせつつ、2019年の正月を迎えている。

2 弁護士業務

1) 再開開発係

以前、岐阜駅東地区の市街地再開発について顧問を引き受けたコンサル会社から、新たに、同地区近くの「高島屋南地区」の市街地再開発事業について依頼があり、顧問契約を締結。この再開開発事業では平成26年に再開開発組合が設立され、平成33年に地上35階・地下1階の再開開発ビルを完成させる予定だ。今後の地権者との交渉等を円滑に進め、再開開発事業の成功に向けて注力していきたい。岐阜駅東地区では、ビルの名称が「岐阜イーストライジング24」と決まり、平成30年度の完成に向けて順調に建設工事が進んでいる。このような大きな事業にかかわることができるのは再開開発案件の醍醐味だ。

2) 苦小牧の離婚訴訟は最終局面へ

平成26年から始まった苦小牧での離婚事件は、離婚調停だけでなく、子の監護権者指定、子の引き渡し、夫婦の同居、婚姻費用等多数の審判事件（と、それらの即時抗告

事件、特別抗告事件）、そして離婚請求権不存在確認訴訟という“型にはまらない訴訟”（残念ながら最高裁まで争い、確認の利益なしで敗訴となったが）と続き、約4年にわたって全面的に争ってきたが、いよいよ離婚訴訟で和解の協議となり、最終局面に入った。離婚が成立しても父子は父子であり、当方の心配は子ども達との面会交流となる。同事件は章平弁護士が毎回のよう苦小牧へ出張し、裁判所で相手方代理人や裁判官と激しい論争を展開してきたが、やっぱり和解がベスト。何とか年内の成立を目指して奮闘してきたが、さて・・・？

3 出版関係—新日本法規の加除式本と法律書

1) 『わかりやすい都市計画法の手引』は、都市のスポンジ化対策のための都市再生特別措置法等の改正に伴う都市計画法の改正で創設された、市町村長が指定した住民団体や商店街組合等が都市計画の案の作成や意見の調整等を行う「都市計画協力団体」制度や、民間が整備すべき都市計画に定められた施設を確実に整備・維持する「都市施設等整備協定」制度をメインとする原稿を執筆。追録39・40号が1月に発行される。

2) 『問答式 土地区画整理の法律実務』は、昨年7月の編集会議を経て、「都市再生特別措置法等の平成30年改正における土地区画整理事業の集約換地の特例とは」等の新設問8問、その他補正26問を執筆。追録45～47号が発行された。

3) 『Q & A 災害をめぐる法律と税務』は、新設問8問、補正28問を執筆し、追録48～51号が発行された。昨年は大阪北部地震、北海道胆振東部地震や台風21号などの大規模な災害が多発しており、執筆すべきネタは多いので、同書の執筆は更に強化したい。

4) 年内の出版を目指していた民事法研究会の『都市計画法の読み解き方』（仮称）は鋭意作業中だが、大作だけに難航している。3月の発行を目指したい。

4 出版関係—シネマ本

1) 『シネマ42』は、『シネマ40』『シネマ41』と同じく出版コードを取り、書店とAmazonで流通させる形で12月20日付で出版。今後も継続予定だ。

2) 弁護士業務の傍ら都市問題を中心に“社会への発信”を続けてきた私は、05年8月に新聞・雑誌等に掲載された評論・コラムをまとめた『がんばったで！31年』（文芸社）を出版。続いて新聞紙上に連載された映画評論を含めて、13年12月には『がんばったで！40年』（自費）を出版した。そうすれば、“5年毎に、10年毎に”と欲が出てくるもの。その結果、直近5年間の評論・コラムをまとめた『がんばったで！45年』を出版するべく、作業を進めている。今春の出版予定だから、乞うご期待！

3) 01年の自社ビルへの事務所移転に伴って開設したHPの中で、楽しみながら始めたのが映画評論。それから約20年経った今、それは“二足のわらじ”を越えて、時間的には本業に近くなっている。そんな私の20年来の夢は、『“法廷モノ”名作映画から学ぶ生きた法律と裁判』の企画出版だ。今やネタは山ほどある。気力も時間も十分ある。王雅さん手描きの表紙イラストも完成した。問題はパソコン要員だけだが、この度何とか、その作業をクリアできた。そのため、同書の出版も今春の予定だから、乞うご期待！

4) 『シネマ本』の企画は、さらに①『ヒトラー映画、ホロコースト映画、ナチス裁判映画全集（SHOW-HEI シネマルーム1～42より）』②『カンヌ・ベネチア・ベルリン三大映画祭を彩るアジア・中東・東欧・南米の名作』③『坂和的中国電影大観4』等があるので、順次発表していきたい。乞うご期待！

5 中国関連

1) 毛丹青氏、李淵博くんらとの交流

『在日本』での『猫咪站长 小玉』を核とした昨年4月29日の和歌山電鐵貴志駅でのイベントは北京に波及し、毛氏も李くんも大活躍。毛氏はノーベル文学賞作家・莫言の原作『白檀の刑』の中国での舞台化でも活躍中で、その日本進出の可能性も！帰国毎の“最良屋”での会食を兼ねた情報交換会は密度が濃くなる一方だ。また、『人民中国』18年10月号は李くんの出身地である安徽省合肥市について、「奇跡の発展を遂げる合肥市の新興産業と科学技術の進化」を特集したが、大学を卒業したばかりだと思っていた李くんの急成長もこれと同じ“奇跡の発展”だ。さあ今年はどんなビックリ弾が飛び出すのだろうか。

2) 史林麗さん、古婷婷さんらとの交流

交遊録(22)で紹介した2人の中国人起業家との交流は不動産ビジネス上でも深まり、顧問弁護士としての活動も開始。中国語学習後の会食を兼ねた各種人脈の交流も拡大中だ。11月には古さんの出身地である成都で企画中の老人ホームの敷地となるファームの視察を兼ねた旅行も内定していたが、中国語検定を優先したため残念ながら先送りに。彼女たちのホテル経営は順調で、民泊のための不動産取得や改修も着々と進んでいる。また、社員が来阪した時の都島の自宅への宿泊も定着化。そのうち大きな商談がドカーンと？！

3) 中国語検定2級にチャレンジ！

中国語検定4級はメチャ簡単。3級もそれなりの努力をすれば合格可能だったから、2011年12月に両者とも合格した。映画検定の4級合格(06年7月)、3級合格(07年10月)も同様だった。しかし、中国語検定2級は全然レベルが違い、メチャ難しい。文法と長文解読は得意だが、ヒヤリングは苦手。そんな私にとって現在の武器は小型iPadだ。もっとも、ヒヤリングには集中が大切だが、そのための時間の確保が難しい。11月25日の試験は“合格レベル確認のため”と位置づけ、本当の合格目標は今年3月と設定したが、もしこんな70歳のチャレンジが成功すれば盛大な拍手をよろしく！

4) 中国語版『坂和章平の映画評論サイト』の開設

李淵博総経理の『在日本』と今回はじめて契約を結び、中国語版の映画評論サイトを開設！これは、42冊も出版を続けてきたシネマ本について、紙媒体から電子サイト活用に移行すべきとアドバイスされていたことの実行だ。私の映画評論を日本語と中国語の両方でアップする同サイトでは、当面中国映画を中心に作業が進んでいるが、毎年300本ずつアップされていくから楽しみだ。一本翻訳するだけでも大変な作業だが、若手社員(中国人)はいとも簡単にやっており、その翻訳文は私の中国語勉強の教材にもなっている。これこそ私の日中友好のあり方だ。映画関係の友人もそうでない友人も是非このサイトの活用を！

6 出資映画がW受賞！遂に公開！

藤元明緒監督の日本・ミャンマー合作『僕の帰る場所 Passage of Life』は、14年に私も一定額を出資して完成した映画。吉田文人と渡邊一孝をプロデューサーとする、“海のものとも山のものともわからない”企画だったが、完成作は見事に17年の第30回東京国際映画祭「アジアの未来」部門で作品賞と国際交流基金特別賞をW受賞！同作は17年の第13回大阪アジア映画祭で3/13と3/16に上映。その後、オランダ・カンボジア・大阪・フィリピン・アイルランド・韓国等の映画祭での上映を続け遂に、18年10月からは東京で、19年1月からは大阪で劇場公開に！在日ミャンマー人の少年とその家族が国境を越えて紡ぐ、実話を基にした愛の物語は感動でいっぱい。外

国人の在留資格の緩和等の社会問題の視点と家族のあり方の視点の両面からじっくり鑑賞したい。

なお、藤元監督は撮影後に出会ったミャンマー人と結婚し、現在はヤンゴンを拠点に活動している。11年の民政移管以降ミャンマーは日本との結びつきが強くなっていくから、同作の『カメラを止めるな！』現象はもちろん、第2弾の企画も期待！

弁護士坂和宏展の抱負と決意

1 近況

子どもは早くも3歳の誕生日を迎え、たどたどしいながら大人との会話も成り立つようになってきました。我が家は夫婦とも弁護士とあって子どもにもつい「理屈」で接しがちですが、そうするとよくしたもので、子どもの方も自分のやりたいこと、イヤなことに何かと理屈をつけて大人を説得にかかろうとするように・・・成長が早いのは喜ばしいことですが、あまり理屈ばかりが先に立つ子になるのも考えものかと試行錯誤しながら子どもとのコミュニケーションを楽しんでいます。また、妻は昨年7月に事務所を移籍し、堺で新たに開設した女性弁護士2人の事務所で働き始めました。新事務所はこれまでの勤務先とも近く(大阪地裁堺支部のすぐ隣です。)、生活に大きな違いはありませんが、新たな環境の中で大変なことも多いようで、私もできるだけサポートをしていきたいと思っています。

2 弁護士業務の執務状況

事件に関しては、変わらず日々の事件を処理しながら過ごしています。平成30年下半年はあまり大きな判決等の動きはありませんでしたが、長時間を要した事件がようやく終結するなど充実した内容となりました。また、大阪経済法科大学での非常勤講師の仕事も続いています。今回は2週間の講義で2回も台風直撃され休講・補講を余儀なくされるというはじめてのトラブルもありましたが、講義の内容はすでに手慣れたものになりました。しかし、講義で扱う民事執行法も、債務者の財産の開示や子の引き渡し等について大規模な改正がほぼ決定するなど最新情報を講義に盛り込む必要があり、毎年同じ内容というわけにいかないため、日々勉強の格好の材料にもなっています。

3 金沢弁護士会で勉強会講師を

私は3年前に縁あって司法修習同期・同クラスの今井多恵子弁護士らと共著で『事実婚・内縁、同性婚 2人のお金と法律』という本を出版し、その中で同性婚の項目を担当しました。その後、性的マイノリティ(いわゆるLGBT)の人々を取り巻く問題が社会的に大きく注目されるようになり、金沢で弁護士をしている妹の米田奈央子弁護士の伝手で、平成30年10月23日、金沢弁護士会で「性的マイノリティを取り巻く法律問題について」という演題で勉強会の講師を務めました。この分野はここ数年の動きが激しく、3年前に執筆した本の内容は既に古くなっており、また、必ずしも「正解」がないテーマも多く難しい仕事でしたが、熱心な参加者に恵まれ、悩みを共有しながら議論を深められたのではないかと思います。

4 2019年の目標

数年前から弁護士業務の中心が章平弁護士から私にシフトしてきたため、一つの事件を「最初から最後まで」私を中心に処理をして終結した事件が増えてきました。そうすると、依頼者の評価の対象も章平弁護士よりむしろ私ということになります。依頼者から「この弁護士に頼んでよかった」「また次の事件が出てきたらこの弁護士に依頼しよう」と思ってもらえるような事件処理に取り組んでいきたいと思っています。

鎌倉、横須賀観光、国立映画アーカイブ見学 (6/27・28)



6/27 大仏サマの前で



6/27 世界三大記念艦「三笠」、東郷平八郎の銅像の前で



6/27 川喜多映画記念館



6/27 鶴岡八幡宮



6/27 長谷寺を見学



6/28 西郷隆盛像の前で



6/28 東京ドームで王さん、長嶋さんと



6/28 国立映画アーカイブ

毛丹青氏・李淵博クンらとの交流

近畿共済と都島の自宅で天神祭パーベキュー (7/27)



3 F ベランダで



3 F 和室で



6/25 毛丹青氏、李淵博クンらと会食



9/25 毛丹青氏、李淵博クンらと会食

美咲の保育園運動会 (10/13)



10/13 保育園運動会

オービック運動会 (10/14)



10/14 太陽の塔の前で



10/17 毛丹青氏、李淵博クン、範越クンらと会食

愛光 9 期囲碁会・飲み会



5/31 愛光関西 9 期会の飲み会



6/8 愛光 9 期囲碁会



10/9 愛光関西 9 期会の飲み会

苦小牧で連チャンゴルフを 4 回！ (5/19・20、7/15・16、9/1・2、9/28・29・30)



7/15・16 苦小牧でゴルフ



9/1・2 苦小牧でゴルフ



9/28・29 丸駒温泉、旅館前



9/28・29 丸駒温泉、支笏湖遊覧船



9/28・29 丸駒温泉、遊覧船



10/27 “サケのふるさと” 千歳水族館

史林麗さん、古婷婷さんらとの交流



6/19 2 人のマンションでママ手作りの四川料理をタブリと



7/25 天神祭



8/15 老成都串で四川料理



8/15 老成都串の四川料理



8/18 不動産の本業打ち合わせ



10/8 カラオケボックスへ



10/8 カラオケで熱唱

鎌倉、横須賀観光、国立映画アーカイブ見学 (写真4頁)

1) 6/27は東京に住む映画仲間の山田将治氏の車に乗せてもらって丸1日鎌倉、横須賀を見学。主たる目的は、知る人ぞ知る川喜多映画記念館の見学だ。閑静な住宅街にある平屋建ての和風建築物内で展示品を見ながら日本映画の歴史を振り返る至福の時を過ごしたうえ、帰り際には私のシネマ本を本棚に並べてもらう約束も！

2) 鶴岡八幡宮と長谷寺を見学した後は鎌倉のシンボル大仏さまを45年ぶりに見学。赤いポロシャツは少し派手かと思ったが、暑い日差しとくすんだ大仏さまの前では程よくフィット！帰り道では、世界三大記念艦「三笠」を30年ぶりに見学。松山市出身で、司馬遼太郎の『坂の上の雲』が大好きな私にとってここは聖地だ

3) 6/28は東京駅近くの国立映画アーカイブで「没後20年 旅する黒澤明」と「日本映画の歴史」を見学。さらに、「お上りさん」気分の上野公園にある西郷さんの像と司法修習生の時以来のご対面を。また夕方には東京ドームで王さん、長嶋さんと並んで(?)写真撮影も。

近畿共済と都島の自宅で天神祭バーベキュー(7/27)(写真4頁)

1) 2018年の天神祭も共済の担当者たちが都島の自宅に大集合！今年は屋上ではなく、3Fのベランダでバーベキューを焼き、冷房をガンガン効かせた隣の和室で食べるというスタイルを採用。満腹になった後は、1Fのパーティールームで大いに飲みながら大所高所からの話題から身近な話題まで、腹を割って語り合った。

2) なお、6/22に居酒屋で実施した幹部社員との懇親会では、今どきの若者の多くが焼酎ではなくハイボールを飲むことにビックリ！そんな“発見”を含めて、本音での飲み会を活用した双方の意思疎通を確立させたい。

毛丹青氏・李淵博クンらとの交流(写真4頁)

1) 『在日本』での「猫咪站长 小玉」の特集、4/29の和歌山電鉄貴志川線・貴志駅での猫の小玉と狐のキャラクター・阿狸とのご対面“イベント”は、夏には北京に波及！小玉の生みの親である小嶋光信両備ホールディングス会長と毛氏の対談は大きな反響を呼んだ。

2) 私がノーベル文学賞作家・莫言と坂和事務所で対談し、有馬温泉で温泉談議をしたのは2011年7月。中国では現在彼の小説『白檀の刑』がオペラ化され上演中だ。それが“京劇”の“霸王別姬”のように、そのまま日本で上演できれば、そりゃすごい。今や文学と文化の領域ではピカイチの実行力を持つ毛氏の手にかかれば、ひょっとしてそんな話が現実に・・・！

3) 『在日本』の若き総経理・李淵博クンの上海と大阪を股にかけた活躍も板についてきた。雑誌の出版はルーティンだが、片腕の範越クンが担当するカーレース事業も面白そう。私の『シネマルーム』を紙媒体から電子サイトに移行した“中国語版映画サイト”も新たな契約の下で発足した。当面、中国映画250本の坂和評論がアップされ、その後は毎年300本ずつ増えていくから楽しみだ。日中両国人民は、是非このサイトの活用を！

秋晴れの下、2つの運動会(10/13・14)(写真4頁)

1) 各地で運動会が開催された10/13(土)・14(日)の2日間は秋晴れ。1964年10月10日に「世界中の青空を全部東京に持ってきてしまったような素晴らしい秋日和でございます。」と実況放送された東京五輪の開会式もこんな秋晴れだったのだろう。そんな両日、保育園に通う

宏展の一人娘・美咲の運動会と、私が監査役を務めている(株)オービックの運動会に参加。

2) 万博会場の“太陽の塔”は昨年3月から内部公開され、9～11月にはあべのハルカス美術館で展覧会も開催された。ドキュメンタリー映画『太陽の塔』では、「芸術は爆発だ！」の岡本太郎が何故あの建造物に挑み、そこに何を求めたのか？を鋭く追及した。2020年の東京五輪とその後実現するかもしれない、再度の大阪万博に向けて、太陽の塔はどのように考えているのだろうか？

愛光9期囲碁会・飲み会(写真5頁)

1) 昨年4月に発足した愛光9期の囲碁会は提唱者で最強の実力者・亀井範雄を中心に、喜安正秀、二宮保男、川淵啓司、坂和らが参加し、毎月一度坂和事務所で開催中。約3時間での総当たり戦がメインだが、時折のワイワイ、ガヤガヤと外野席からの応援(邪魔?)も楽しい。

2) 終了後は鼎頂屋で1杯飲みながらの反省会。“飲み会”だけの参加者もあり、そこではいつも多岐にわたる話題が提供され、飽きることがない。今年5月の松山での70歳記念同窓会は一大会事だが、この小さな囲碁会と飲み会はずっと継続したい。

苦小牧で連チャンゴルフを4回！(写真5頁)

1) 昨年の夏と秋は“大型で非常に強い”台風が次々と日本列島を縦断。その暴風雨は各地に甚大な被害を発生させた。さらに、9/6には苦小牧のすぐ近くでM6.7、最大震度7の北海道胆振東部地震が発生した。数年間札幌と苦小牧の裁判所に係属していた離婚事件がやっと最終局面を迎える中、仕事の合間のゴルフもしっかり実施。封印していたピカピカのドライバーを使い始めるとこれが好調！また、ラウンド数が増えると飛距離は相変わらずヘボながら、50～100ydのアイアンの切れと“寄せワン”のスタイルが復活。いつも快晴下で、10回近くのゴルフを楽しめた。

2) 9/28は丸駒温泉へ。露天風呂から眺める支笏湖も美しかったが、たった4人で乗った30分間の観光船での支笏湖遊覧は至福の時。ひょっとして自分で船を操縦？日本列島を横断した台風24号で九州、四国、近畿、北陸、東京等が大変な状況に陥る中、9/29・30に苦小牧でゴルフができたのは超ラッキー。翌日は欠航便が相次いだため予定変更を余儀なくされたが、そのおかげではじめて国内線のプレミアムシートに座る経験も。昼間の2時間半のフライトで、昼食やアルコールが出されたことにビックリ！

3) 10/27は雨のためゴルフを中止し、日本最大級の淡水魚水族館である“サケのふるさと”千歳水族館へ。神秘的湖底を再現した支笏湖大水槽や千歳川がそのまま水族館になった水中観察ゾーンを観賞！

史林麗さん、古婷婷さんらとの交流(写真5頁)

1) 時事ネタ、歴史ネタ、映画ネタを中心とした史老師との毎月1～2回の中国語勉強会は充実した時間。不動産の社長業が忙しい古さんとは食事での会話を中心だが、情報交換で得るものは多い。不動産業をしている私の友人を紹介し一緒に会食すると、ビジネス展開の話題も盛り上がる。正式に会社の顧問弁護士としての活動も開始した。

2) また、①天神祭に一緒に行ったり、②マンションに招待され、ママ手作りの四川料理をごちそうになったり、③ミナミの老成都串串で本場の串鍋を食べたり、交流は深まっている。11/25に中国語検定2級を受けることを決めたため成都旅行は中止。しかし、11月はムリとしても今年3月の合格を目指し、是非5月には成都旅行に！

<話題の邦画4作>

①『万引き家族』(是枝裕和 監督・脚本・編集)

親の死亡を届け出なければ、親の年金はいつまでも受給可能。死体が発見され逮捕された時、親の年齢は111歳に！そんな“世も末だ”と思われる事件が本作のきっかけだが、故樹木希林さんや是枝裕和監督たちの努力をカンヌが絶賛！“万引き家族”の英訳は難しいが、そのテーマは「盗んだのは家族の絆でした」だ。NHKの朝ドラで安藤百福の妻役を演じ始めた安藤サクラが、本作後半では前科のある夫に代わって死体損壊罪で有罪とされ、“万引き家族”は解体されるが、そこでの彼女の“叫び”は必見だ。パルムドール賞おめでとう！樹木希林さん安らかに！

②『カメラを止めるな！』(上田慎一郎 監督・脚本・編集)

低予算でも素人に近い俳優陣でも、アイデアさえあれば！そして脚本さえ良ければ！『この世界の片隅に』や『バーバリ 王の凱旋』のように、稀に口コミだけでジワジワと人気を広がり大ヒットに至る映画があるが、本作のそれはケタ外れ！300万円の製作費で超拡大ロードショーそして連日の超満員現象にビックリ！前半は37分間のワンシーン・ワンカットによるゾンビサバイバル映画、そして後半は“ドッキリカメラ”まがいの、あっと驚くネタばらし満載という2部構成は確かに面白い。そのアイデアは大成功だが、私はそこに総出していく今ドキの日本人の姿に、少し違和感と恐ろしさも・・・

③『孤狼の血』(白石和彌 監督、柚月裕子 原作)

北野武監督の『アウトレージ』シリーズも相当エグかったが、阿南惟幾陸相役や徳川家康役から殺人犯役まで何でもござれの役所広司が叫んだ「警察じゃけえ、何をしてもええんじゃ」のセリフは日本中を席卷！松坂桃李演じる“ヒロダイ”出のエリート若手巡査のバディ役も大変だった。女性作家の原作とは思えない「警察小説×仁義なき戦い」の映画化と今後のシリーズ化(?)には驚いたが、“ヤクザ抗争”は映画の中だけで十分。くれぐれも、本作の主人公を“ヒーロー”と考えないように。

④『教諭師』(佐向大 監督)

樹木希林の死去は日本映画界の大損失だが、ベテラン俳優・大杉漣の死去も大損失。パイプレーヤーの重要さを彼ほど感じさせる俳優は少なかったが、本作は大杉漣、最初のプロデュース作にて最後の主演作だ。“教諭師”は“支

え役”よりはわかりやすいが、その実態は？それを学ぶと共に、舞台やドキュメンタリーのように教諭師が接する6人の死刑囚のキャラに注目！

<この国で若者たちはどう生きる？>

①『マルクス・エンゲルス』(フランス、ドイツ、ベルギー)

マルクスもエンゲルスも“髭もじゃ”の大人の風格を備えた写真が有名だが、彼らが26歳、24歳の時は？時代は1840年代。舞台は革命前夜のベルリン、パリ、ロンドンだ。ヘーゲルの哲学を「世の中を解釈しただけ」と批判し、次々と著作を世に送り出した若き2人の革命家は、「正義者同盟」の総会に。そこでマルクスが見せる熱弁と、「万国の労働者よ、団結せよ！」の新スローガンの採択はお見事。そして、1848年に『共産党宣言』が出版されると・・・？坂本龍馬や西郷隆盛とも比較しながら、若き日のマルクスとエンゲルスの生きざまをしっかりと確認したい。

②『止められるか、俺たちを』(日本)

私の大学入学は1967年4月。東大の安田講堂事件は69年1月。赤軍派による「よど号」ハイジャック事件は70年3月。三島由紀夫の割腹自殺事件は70年11月だ。そんな時代状況の中、私はある日、学生運動と縁を切り、司法試験の道に進んだが、当時“ピンク映画の旗手だった”若松孝二監督はどんな生き方を？“俺たち”とは、若松プロに結集する足立正生、荒井晴彦そして紅一点の吉積めぐみ等だが、なぜ彼らはそこに結集したの？その意味を、何とも無謀な企画で、今の時代に、今の若者たちに問うのは白石和彌監督。若松門下生としての彼の意欲が“止まらなかった”わけだが、その勢いは？

③『軍中樂園』(台湾)

韓国の「従軍」慰安婦問題は最終かつ不可逆的に解決した(はずだ)が、金門島にあった「軍中樂園」とは？別名「特約茶室」「831部隊」と呼ばれた軍専属の慰安所では、どんな「侍應生」が？どんなサービスが？料金は？そんなスケベおやじの興味以上に本作では、大陸からわずか2kmの位置にある小豆島と同じ位の大きさの金門島の軍事的位置付けを確認したうえで、1969年当時の金門島で生きる男と女の人間模様をしっかりと学びたい。



◆ 業務時間 ◆

平日 午前9時～午後6時

土曜日 午前9時～午後3時

(業務時間外の相談をご希望の方はお申し出下さい。)

* 相談に来られる際は日時の予約をしていただき、関係資料を一持参して下さい。

* また相談内容のメモを事前にFAXもしくはメールにていただければ幸いです。

* お車で来られる方はアクセスマップ(車・タクシー用)を参照して下さい。

事務所のホームページ

<http://www.sakawa-lawoffice.gr.jp/sub1-3-2007chizu.pdf>

から印刷して下さい。お電話をいただきましたらFAXします。

弁護士兼映画評論家 坂和章平の出版物の紹介

<まちづくり本、法律書>



<実況中継シリーズ全4冊>



<その他>



<コラム、生き方、中国語本>



<『シネマルーム』シリーズ>

